

【水彩画クラブ27】卒業後6年目の活動 2018年3月

◇第112回活動:2018年3月12日(月) 午後1時から ヌエック207室

関矢さんから復帰への頑張り報告がメールであった(3日)「2日の診察日に毛呂の埼玉医大医院へ行き、血液検査とMRI検査を受けてから主治医の診察を受けた。圧迫骨折は病的骨折ではなく、自然に発症した骨折とのこと。多発性骨時腫の一ヶ月分分の薬を支給された。リハビリの先生の注意事項を厳守して、ゆっくり、焦らず頑張ります。足の筋力も少しずつ回復して、足が太くなったようです」先月26日(月)の朝10時頃に関矢さん自宅に行き、ダイニングでお茶を飲みながら、リハビリの状況を本人から聴取した。

『上田城址 懐古園のツララ』習作の3回目。

宿題として「①7本目からのツララを仕上げる、②屋根上の積雪に見える青い陰下側にマスキング、③右側下部のツル草を影のように暗めにする」をやってきた。

1. 屋根上の積雪に出来ている青い影を描いていく。

① 軒瓦と雪との境目にマスキングを施す。

出来れば少し太めに施す。

② 青い雪の影色をつくる。

暗青色+濃紺色を混色し、焦げ茶色を少し混色してから紫色を混ぜて水溶きしておく。

③ 前項でつくった青い影色を薄めに溶いてから小筆に取り、軒瓦上の影を淡目に塗っていく。小筆の水筆で影全体に塗っていく。

④ ドライヤーで乾かしてから、課題写真を見て陽が当たって薄く見えるところにマスキングを塗るように施していく。

⑤ マスキングインクを乾かしてから、②項の青い影色を濃い目にして小筆に取り、張り出している雪の右側においていき、直ぐに水筆で周りをぼかしていく。

⑥ 屋根上の積雪面に出来ている窪みの影を描いていく。

マスキング線に沿って濃い目の青い影色を塗り、直ぐに水筆で周囲にボカしていく。

2. 右側下部にある雪のすき間に見えるツル草を描いていく。

① 枯れ草色をつくる。

黄色に茶系の色(赤茶色、焦げ茶色)を混ぜてつくる。

② 淡目に溶いた枯れ葉色を小筆に取り、枯れ葉部分に擦るようににおいていき、直ぐに水筆でぼかしていく。

③ マスキング筆で、枯れ葉の形を意識しながら適当に描いて施していく。

④ ドライヤーで乾かしてから、①の枯れ葉色に暗い影色(暗青色+焦げ茶色)を混ぜた暗い枯れ葉色をドライブラシ技法で色をおいていき、直ぐに水筆でぼかしていく。

※ 今日の活動はここで終わった。次回の活動から新しい課題写真の習作活動になるので、各自自宅ですべて仕上げて行く。

右側の雪挟間に見えるツル草や雪を描いたら、雪の上のツル草や木の幹を描いて仕上げていく。

3. 次回(3月26日(月))の活動予定(次回の活動場所:本館試食室)

活動冒頭に配布された課題写真『智光山の小畦川』を描いていきます。

用意してくること

① 水張りしたF8のウォーターフォード水彩紙に課題をデッサンする。

② 川面から出ている芦の茎をマスキングする。

③ 川の波間に輝いて白く見える波頭をマスキングする。

マスキングの仕方:形状通りに塗りつぶさずに、マスキング筆先を平行に且つ左右ジグザグに動かして、描くように施していく。

◇第113回活動:2018年3月26日(月) 午後1時から ヌエック 試食室

今日10時頃に関矢さんに電話した。「欠席された定期総会の議事録冊子と、校友会会費の領収書を届けに

行くよ」と。関矢さんは「今度の活動日の9日に行きます。挨拶だけですが顔見世に・・・」と元気な声で話してくれました。

今日から新たな課題写真『智光山の小畦川』を描いていく。

宿題として、水張りしたF8ウォーターフォード水彩紙に課題をデッサンし、小畦川の波間にある陽が当たって白く光る波頭、生えている芦の茎にマスキングしてきた。

小畦川手前の雪岸と、対岸の岸際にマスキングを施す。

- ① 雪岸の線は直線ではなく、微妙な凸凹感をマスキング筆の先端を使って描くように施し、1センチ程の中でマスキングしていく。
- ② 手本を逆さに置き換えて画板も逆さにしてから、対岸の岸際をマスキング筆の先端で手本の形を見ながらツツツと描いていき、その上1センチ程の中でマスキングしていく。

1. 小畦川を描いていく。

- ① 色を何色かパレットに水溶きする。
鮮青色、濃紺色、紫色、青い影色(暗青色(少し多目) + 焦げ茶色)
- ② 巾広の平筆で川全体に、平筆を平行に動かして水を塗っていく。余分な水はティッシュでサーッと拭き取っておく。
- ③ 水多目に溶いた鮮青色をハケ(巾広の平筆)に取り、手前雪岸辺からサーッと平行に動かして中程まで塗っていく。同じ要領で、中程から重なるように濃紺色を、次に向こう岸際に青い影色をハケで平行に塗っていく。
- ④ 右側向こう岸付近に紫色をハケ塗りし、向こう岸際に青い影色をサーッと塗っていく。
- ⑤ 塗り終わったら画板を手に持ち、前後左右に傾けて塗った色を広げながら、滲ませていく。
- ⑥ 青い手アミに鮮青色や暗青色、紫色や青い影色を平筆で塗り、あちらこちらに指で弾いて巻き散らしていく。偏らず、集中しないように気をつける。

画板を持って前後左右に傾けながら、広げながら周囲に滲ませていく。芦の茎を縦に施したマスキングインクが壁になって溜まるので、反対に傾けたりして散らしていく。

2. 塗った色をドライヤーで十分に乾かしてから、ダブルマスキングを施す。

- ① 小畦川右側上部分の対岸藪が映っている部分、その上に見える波模様をマスキング筆で描くように施していく。
- ② 白く輝く波頭の下部に、マスキング筆で波紋を描くようにマスキングしていく。
- ③ 右側中程から薄い空色で少し大きめの波紋部分に、マスキングを施す。

3. マスキングインクを乾かしてから、

- ① 右側上部分の藪が映る影部分に、紫色とオレンジを混色した少し明るめの赤茶色を小筆に取り、ドライブラシ技法で擦って色をおき、水筆で散らしていく。
- ② 色を乾かしてから、葉っぱの形にマスキング筆で描くように施していく。

4. 対岸岸際の濃い影や波紋を描いていく。

- ① 青の影色(暗青色(少し多目) + 焦げ茶色)に紫色を少し混色し、濃い目につくる。
- ② 小筆に①の色をとり、岸際を少し多目に塗るようにおいていく。直ぐに下側を水筆で滲ませていく。左側から右端へ同じ要領で岸際の影を縫っていく。
- ③ 右側の藪の影、焦げ茶色を小筆に取り、ドライブラシ技法で色を置いていき、直ぐに水筆で滲ませていく。
- ④ 前項2の②で施したマスキング線近くに、濃い目の青い影色を小筆に取り、波を描いていく。

5. 塗ってきた色をドライヤーで十分に乾かしてから、1項①の各色を少し濃い目にして小畦川に色をおいていく。

- ① 川全体にハケで水をサーッと練っていく。余分な水はティッシュでサッと拭き取っておく。
- ② 濃い目に溶いた鮮青色をハケに取り、手前雪岸辺からサーッと平行に動かして中程まで塗っていく。同じ要領で中程から重なるように濃い目の濃紺色を、次に向こう岸際に濃い目の青い影色をハケで平行に塗っていく。
- ③ 塗り終わってから画板を持って前後左右に傾けて、塗った色を広げながら滲ませていく。

6. ドライヤーで十分に乾かしてから、筆先の先端を少し斜めに切り落とした硬目の平筆を水につけてから、課題を見ながらはじけて輝いている波頭(マスキングしてある)周囲を擦ってぼかしておく。他に何ヶ所かぼかしておく。

※ 全体を乾かしてから施していたマスキングインクをきれいに剥がし取っていく。この時、向こう岸の上に突き

出ている芦のマスクングインクは残しておく。

7. 次回(4月9日(月))の活動予定 研修棟207号室

各自宿題としてやってくること

- ① 向こう岸左側に見える山のような白い雪原にマスクングを施してくる。
 - a) 真っ白い山状の輪郭部分に筆で水を塗ってから、4～5mmの中でマスクングを施していく。
 - b) 次に山状の内部全体にマスクングインクを塗って施していく。
- ② 上の方で覗いている藪の周りがある雪や、藪にかかっている雪などにマスクングを施しておく。